

## 【学生フォーラム】

### 和歌山県太地町の「くじらの町づくり」構想について

人間環境大学 人間環境学部 環境科学科 湊詩織

#### 【要旨】

「The COVE」という和歌山県太地町が行うイルカ追い込み漁について描いた映画がある。作中での捕鯨従事者は「反動物愛護」の象徴として描かれているが、この作品は現実の太地町を描写したものなのか。私はこのような問いの元、調査を行ってきた。

調査の結果、太地はこの映画の公開以前から100年後もくじらと共存することを目指した政策が行われていることがわかった。

本報告ではどのような経緯で「くじらの町づくり」構想に至ったのかを明らかにする。

#### 1. 序論

和歌山県東牟婁郡太地町の捕鯨の歴史は古く、1606年に捕鯨を開始してから現在まで400年以上行われてきた。1675年には現在も行われる船と漁網でイルカの群れを入り江に追い込むという手法の「イルカの追い込み漁」が始まった<sup>(1)</sup>。

2019年現在で「イルカ追い込み漁」を行い、毎漁期に一定頭数の捕獲量をあげる地域は和歌山県の太地町のみとなった<sup>(2)</sup>。

さらに「イルカ追い込み漁」に関して2009年に「The COVE」が公開されて以降、太地町は動物愛護運動の聖地となり、連日動物愛護団体が抗議活動が行われた。

そんな太地町では現在、100年後もくじらと共存するために、2030年までにくじらの保全を視野に入れた町づくり構想が計画されている<sup>(3)</sup>。

一見、国外からの批判や映画の影響を受け、町が保全へと舵を切ったかのように見えるが、いつ保全へと切り替えたのか、背景には何があったのか、不明瞭な点が多い。

そこで、こうした変化はどのように起こったのか、その史的変遷を明らかにすることを本研究の目的とする。

#### 2. 調査手法

本調査では第1期を商業捕鯨禁止以前の時代、第2期を商業捕鯨禁止から映画公開までの時代、第3期を映画公開から現在にかけての時代、の3つの時代に分けた。そして、2019年9月2日から7日にかけて捕鯨従事者や町役場職員、資料館の職員に対し、この時代に合わせた半構造化インタビューや、文献調査を行った。

#### 3. 結果

(1) 第1期 商業捕鯨禁止以前の時代

かつて、特に戦後は栄養豊富なくじらは食料として重宝され、余すところなく利用していた。そして、今ほど厳しい規制もなかったことから何万頭と捕獲されていた時代もあったという。

しかし当時の町長が「今後くじらが取れなくなる」と予想し、太地をくじらと共存し続ける町にするという思いで1969年「太地町立くじらの博物館」を開館させた。

#### (2) 第2期 商業捕鯨禁止から映画公開までの時代

水族館を改良し、くじらを観光資源と捉えることでくじらと共に町を発展させた。しかし、動物愛護の風潮になりつつあり、観光資源の状態では「くじらの町」として存在し続けるのは難しいという声があがったそうだ。

そこで、2006年「太地町くじらと自然公園のまちづくり」構想という町づくり構想が行政計画として計画された。

#### (3) 第3期 映画公開から現在までの時代

現在は「太地町くじらと自然公園のまちづくり」構想を2030年までに完成させるべく、構想のテーマに沿った計画が実行されつつある<sup>(3)</sup>。

## 4. 結論

太地町は映画の影響から「反動物愛護」のイメージを持たれがちだ。しかし実際は、時代や、世界の流れにも目を向け、対応することで100年後もくじらと共存する町づくりを行なっている。

また、映画の影響や、反捕鯨団体と捕鯨従事者の二項対立の元で起こった構想ではなく、太地町の人々の本来の考え方のくじらの資源利用の変化の中で発生した構想が本報告にある町づくり構想であったととることができる。

## 5. 今後の課題

太地町の人々が何にどのようににはたらきかけ、どのようにこの構想に関わっているのかという細部を調べ、さらに細かくこの構想の動態をつかむ必要がある。

## 6. 参考文献

### (1) 日本捕鯨協会「捕鯨の歴史」

<https://www.whaling.jp/history.html> (閲覧日:2020年1月31日)

### (2) 水産庁「国際漁業資源の現状~47 小型鯨類の漁業と資源調査~」

[http://kokushi.fra.go.jp/H30/H30\\_47.html](http://kokushi.fra.go.jp/H30/H30_47.html) (閲覧日:2020年1月31日)

### (3) 「太地町くじらと自然公園のまちづくり」構想くじらと自然、美しい景観を活かした集客・交流のまちづくり~くじらと海のエコミュージアム太地を目指して~